

保健師の人材確保について

～徳島県における「退職保健師」 活躍支援の取組～



新時代へ
躍り出そう

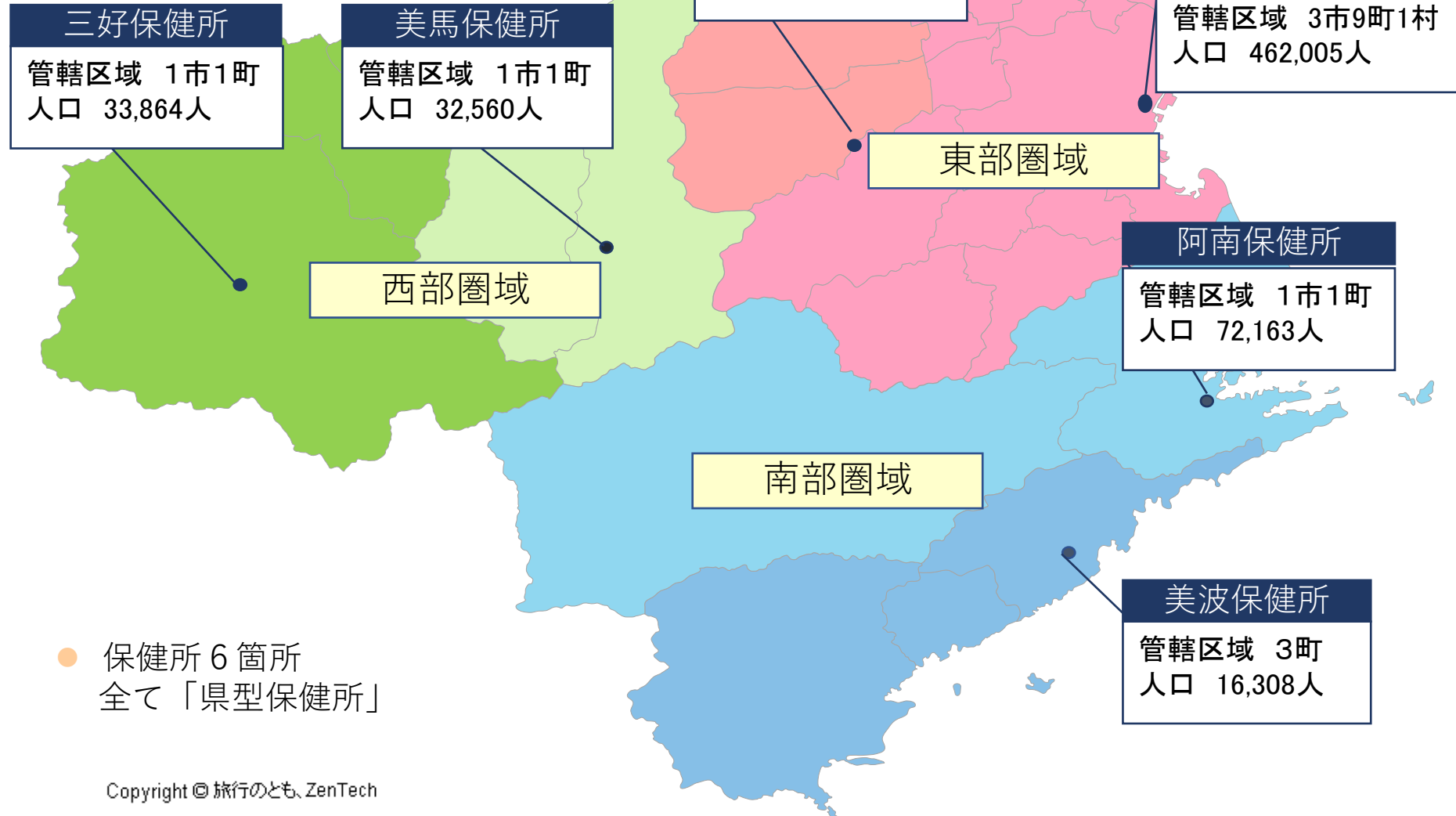
Sustainable AI 藍 Land
TOKUSHIMA

徳島県保健福祉部

副部長（統括保健師） 梅田 弥生

徳島県の概要

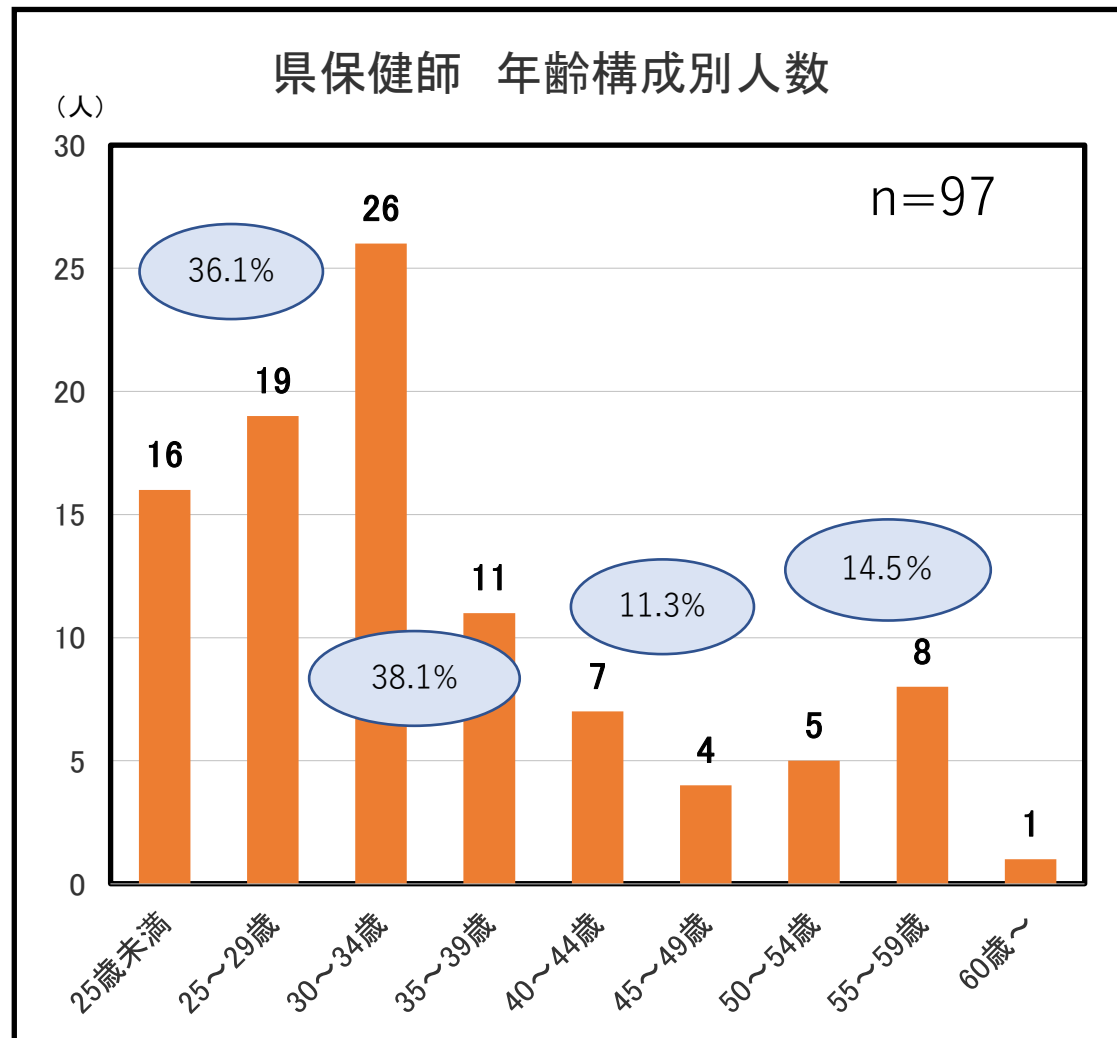
- 人口 685,357人 (R6.10.1)
- 構成市町村数 24市町村 (8市15町1村)
- 高齢化率 35.3% (R5.10.1 全国3位)



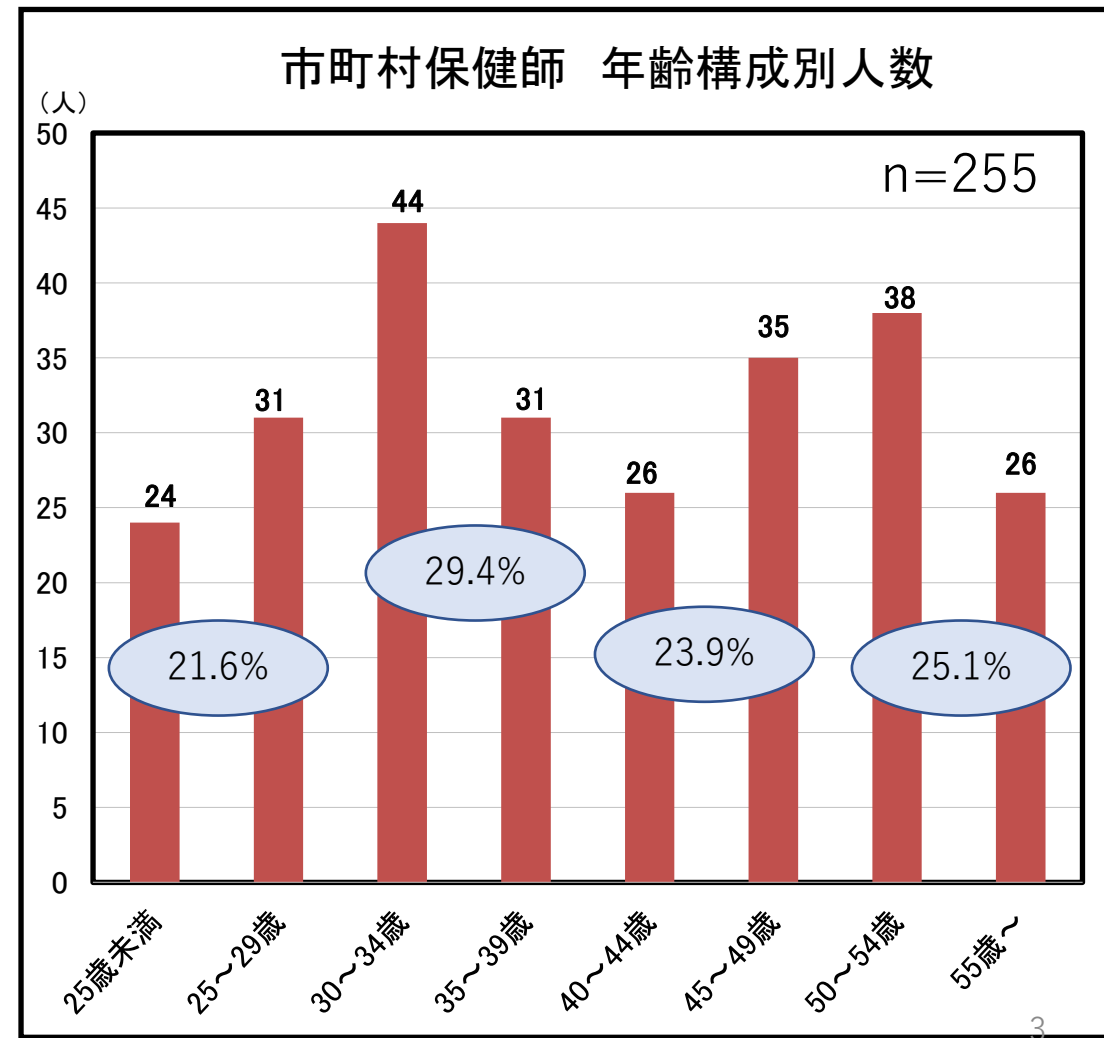
徳島県の保健師の状況

■ 就業保健師数 476人
人口10万対就業保健師数 67.6人（全国 48.3人 全国13位 R4年度衛生行政報告例）

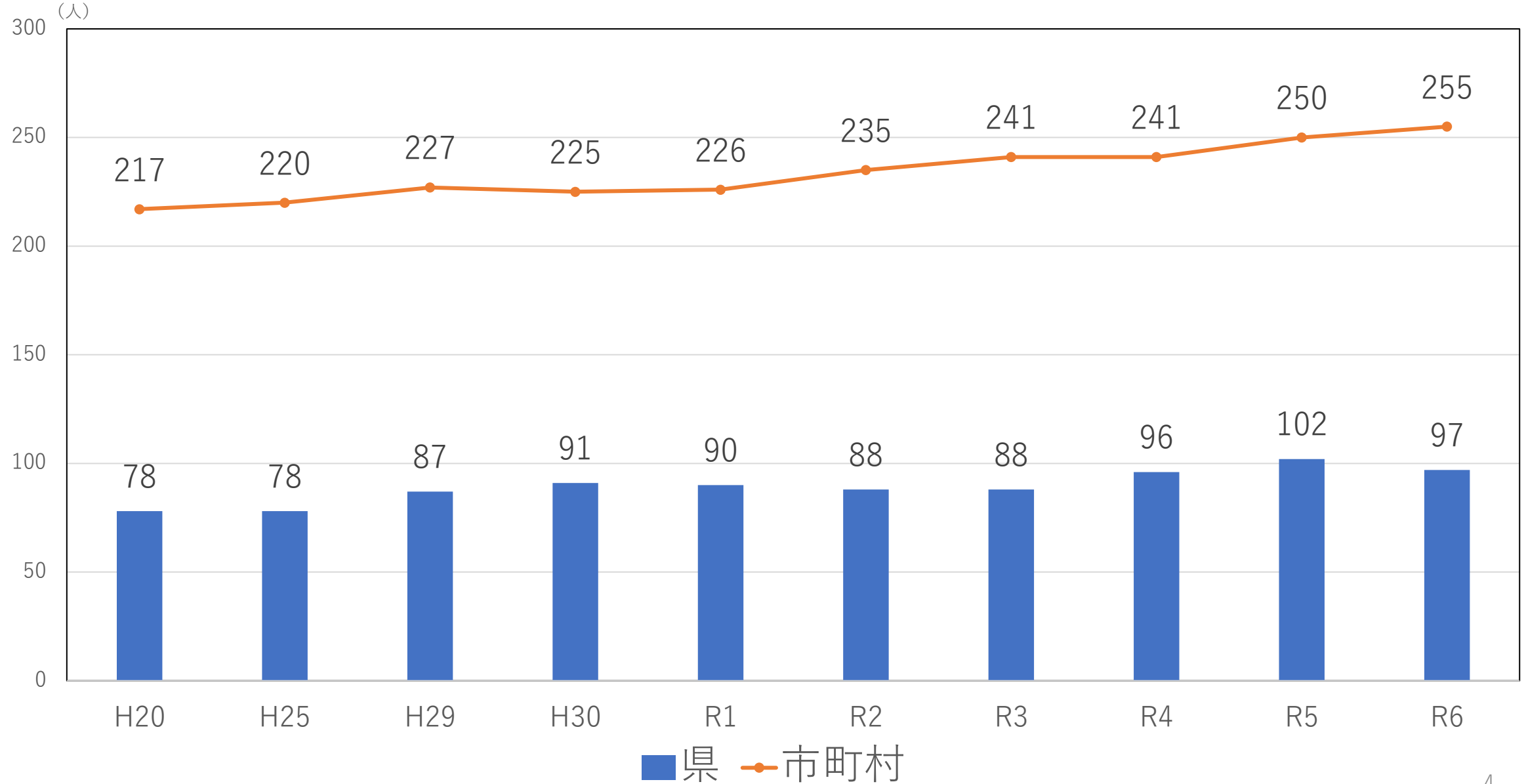
■ 行政保健師の状況 352人（R6年4月1日現在）



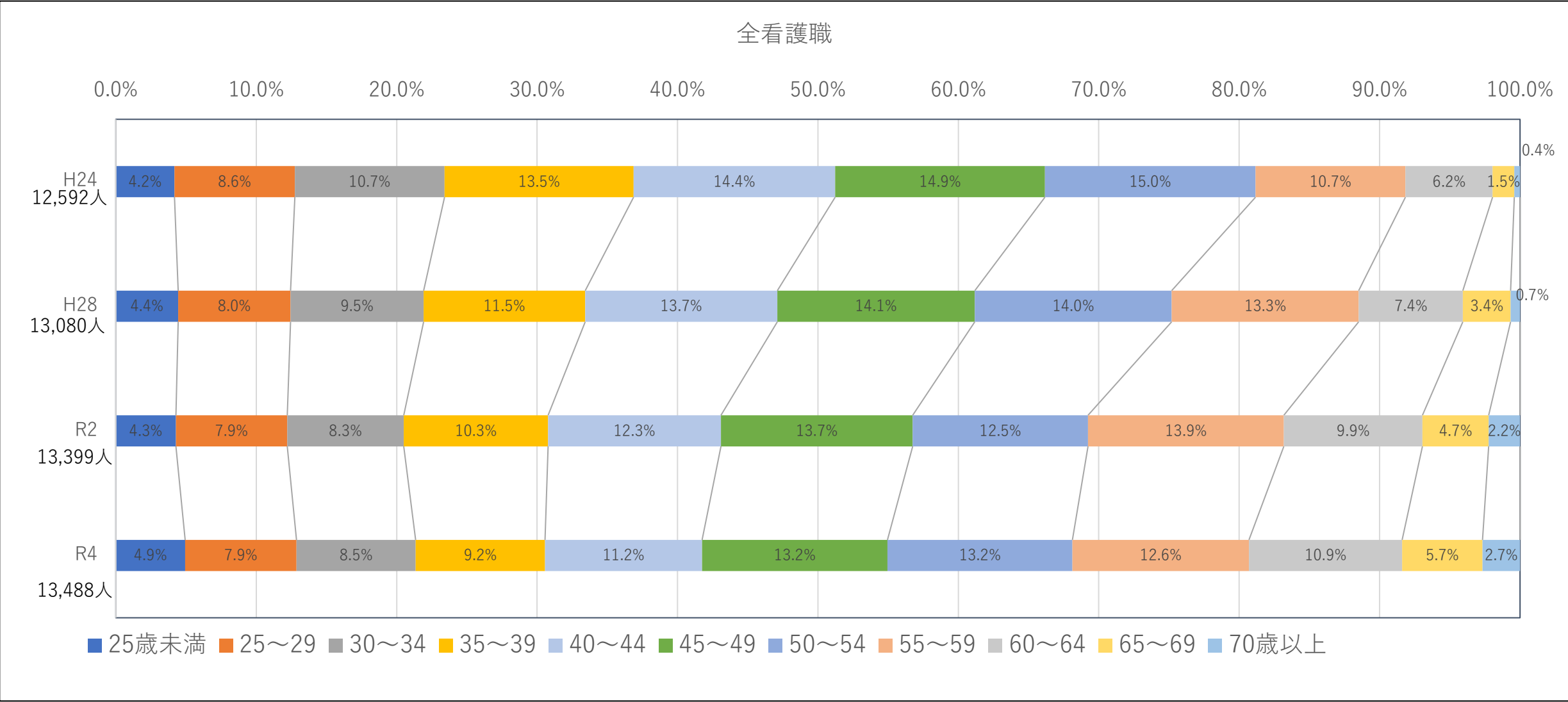
※再任用は含まない



行政保健師数の推移

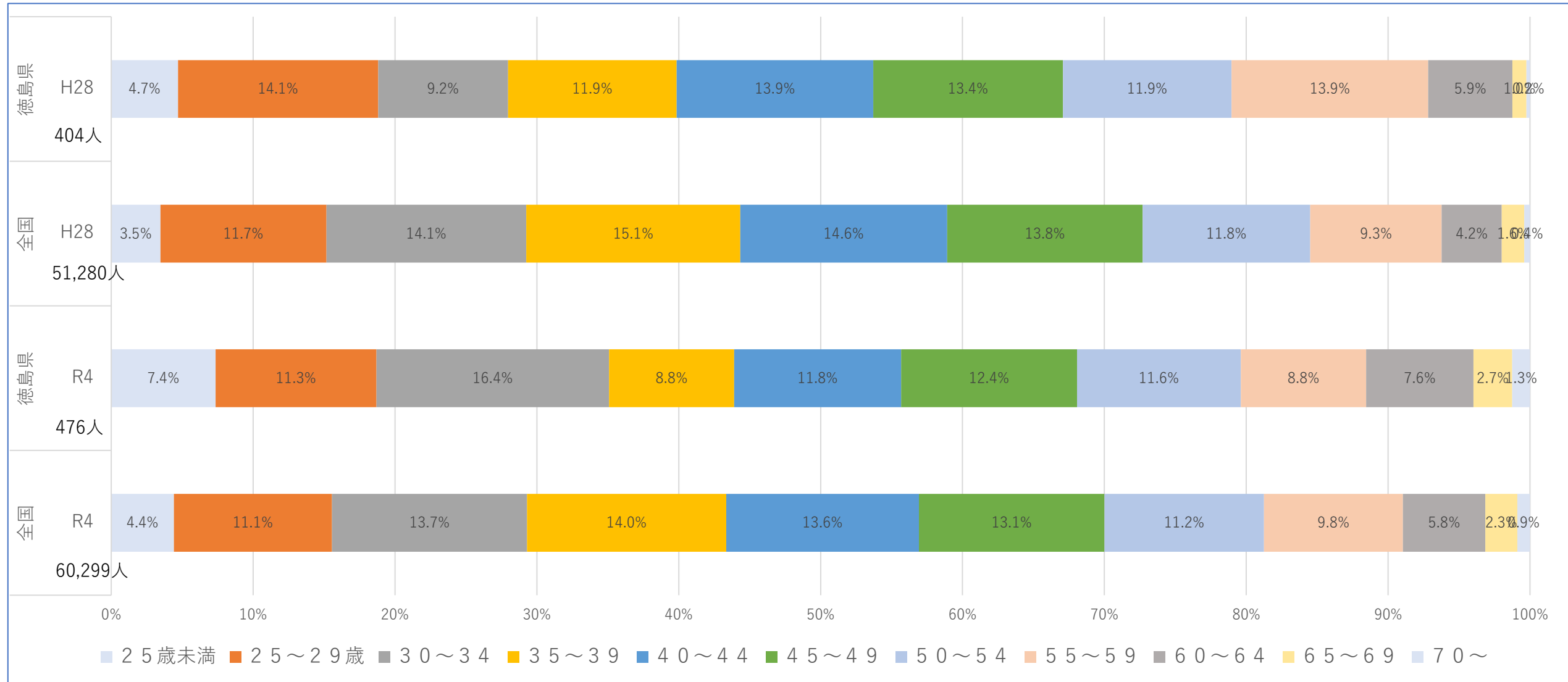


(参考) 徳島県の就業看護職員の年齢階級別状況



60歳以上 H24 8.2%(1,027人) → R4 19.3% (2,603人)

(参考) 就業保健師の年齢階級別状況



60歳以上 H28 7.2%(29人 全国6.2%) → R4 11.6% (55人 全国9.0%人)

退職保健師の活躍支援（徳島県プラチナ保健師制度）について①

1 制度創設の背景

- 東日本大震災等の災害を契機として、住民の生命と健康を守り、支える保健師の重要性が改めて認識された。
- しかしながら、大規模災害時には被災自治体の保健師だけでは、対応が困難。
地域の状況を熟知している支援者の必要性。
- 退職が近い保健師から、**退職後も何か支援できることはないか**との申し出あり。

地域を熟知し、豊かな知識や経験を持った「**退職保健師**」が災害時の支援者として
適任であると、スポットが当たる

「**徳島県プラチナ保健師**」制度の創設(H25年度から)

名称の由来・・・

「**プラチナ**」のように、いつまでも、きらきらと輝いて活動していただきたい

退職保健師の活躍支援（徳島県プラチナ保健師制度）について②

2 制度の概要

■制度の趣旨

災害への対応や県民の健康増進等を充実するため、永年培った知識や技術を有する退職保健師を「**徳島県プラチナ保健師**」として登録、地域の災害支援活動や保健活動をサポートすることで、自らの専門性を社会貢献に役立てるとともに「**生涯保健師**」活動を支援することを目的として実施

■対象

保健師としての勤務経験があり、県内在住の者

■周知方法

県のホームページに掲載及び退職保健師に県、市町村から周知

■活動内容

（１）災害時の保健活動支援

市町村等と連携を図り、平時から「災害訓練」に参加する等、地域住民との関係を作るとともに、災害発生時には「避難所や福祉避難所」において、避難住民の健康管理・心のケアを行い、必要に応じ避難所等の関係者との調整を行う。

（２）平時の活動

- ① 地域保健活動支援：高齢者や子ども等の生きがいづくりや健康づくりを支援
- ② 市町村等の保健事業の支援
- ③ 地域の各種計画や各種審議会等への参加：各種計画や審議会に参加、住民のニーズにあった施策への提言を発信

（３）その他

県民の健康増進に寄与する活動

■活動方法等

- ・「プラチナ保健師」を市町村等、関係機関に広報。直接、具体的な活動（有償・無償）について依頼先と相談の上、活動
- ・県から災害関係等の研修会や情報について、随時提供
- ・1年間の活動状況について、年度末に県から聞き取り

徳島県プラチナ保健師の活動の実際①

平成26年 台風11号 (徳島県那賀町)

■活動期間

平成26年8月13日から8月24日 (12日間)

■活動場所

徳島県那賀町

■活動に至った経緯

徳島県社会福祉協議会より、「プラチナ保健師」に
災害ボランティアの健康管理をお願いしたいと依頼

■活動内容

居住地が近隣のプラチナ保健師が依頼先と相談し、4名の保健師が
従事 (2人ずつのローテーション)

○ボランティア従事者の健康管理 (住民の健康管理は「町保健師」、「保健所保健師」対応)

釘を踏んだ、指をついた、熱中症対応、血圧測定など

○プラチナ保健師から

- ・非常にいい経験をさせてもらった
- ・孫の世話をしながら、従事できた
- ・保健師がいるだけで、安心できるといってくれる人もいた



(那賀町提供)

新型コロナウイルス感染症対応

■活動場所

各保健所及び入院調整本部、宿泊療養施設、予防接種会場

■活動実績

年度	従事者数（実人員）	活動内容
令和2年度	会計年度任用職員 4人（週3日～5日） 再任用職員 1人（週4日） ナースバンクより紹介 1人（6ヶ月）	・宿泊療養施設における健康管理 ・積極的疫学調査 ・電話相談 ・施設の感染症対策対応 ・PCR検査検体採取業務 ・入院調整業務 ・健康観察 ・コロナワクチン予防接種
令和3年度	会計年度任用職員 3人（週3日） 再任用職員 1人（週4日） IHEAT 4人（10日～1ヶ月）	
令和4年度	会計年度任用職員 3人（週3日） 再任用職員 2人（週4日） IHEAT 9人（9日～8ヶ月）	

■活動を踏まえて

○プラチナ保健師

- ・現役の時に培ってきた技術が少しでも役に立てればと思い、支援した。役に立てたようでよかった。
- ・退職しても、何らの形で地域保健につながっていたからこそ、支援できたと思った。

○支援を受けた側

- ・同じ職種、先輩だからこそ、事情もよくわかってもらえ、渦中にいたら気がつかないことについても助言をもらえた。
- ・精神的な大きな支えになった。まさに救世主のようであった。
- ・若い職員に積極的疫学調査を始め、聞き取りきめ細かに指導をしてもらえるとともに、温かく支えてもらえた。

(公社) 徳島県看護協会との連携

プラチナ保健師活動支援事業

平成25年度から事業開始

- ◆ プラチナ保健師が「看護職の生涯活躍」を牽引
- ◆ プラチナ保健師、AWAナースがIHEATとして登録し活動
- ◆ 多様な活動形態を支える重層的な体制

AWAナースサポートセンター事業

- ・平成29年度から事業開始（徳島県委託事業）
- ・業務内容
 - (1)退職後の看護職を「AWAナース」として登録
 - (2)培ってきた技術や知識を生かしていただくため、求人施設や事業所等とのマッチングを実施
 - (3)研修会、交流会の実施
- ・登録者数 180名
- ・年齢別状況

年代	20代	30代	40代	50代	60代	70代～
計	1	4	9	20	116	30

徳島県看護協会が「看護職人材バンク」、「セカンドキャリア支援」として、プラチナ保健師の活動支援を一体的に担う

IHEAT養成・派遣調整等（保健師等感染症対応人材確保事業に係る人材募集・研修等業務）

- ・令和3年度（R4年1月）から事業開始（徳島県委託事業）
- ・業務内容
 - (1)名簿登録者の募集
 - (2)IHEATシステムの管理
 - (3)事前研修の実施
 - (4)名簿登録者への派遣要請
- ・登録者数 126名
- ・年齢別状況

年代	20代	30代	40代	50代	60代	70代～
計	1	9	13	22	60	21
うち保健師	0	1	0	1	15	4

※ プラチナ保健師 13名

徳島県プラチナ保健師の活動の実際③

令和5年度より「プラチナ保健師」の登録は県で行い、研修、活動マッチング業務等については徳島県看護協会「AWAナースサポートセンター」へ移管

令和6年度活動実績

■登録者数（令和7年1月現在）

25名（63歳～72歳）

■活動内容

（1）研修会及び交流会

①研修会

「南海トラフ巨大地震に備えて」

（2）災害に備えて「地域とつながる」

①施設見学

地域（地元）の介護老人保健施設、医療機関（難病診療分野別拠点病院）

②市町村主催のイベントに参加

総合防災訓練、こころの健康講演会、こころのサポーター養成講座に参加

（3）その他

介護認定審査委員、研修会講師、各種審査委員健診業務、イベント救護、県民の健康増進に寄与する活動

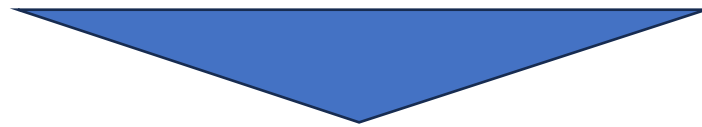
まとめ

- プラチナ保健師制度創設により、プラチナ保健師が関係機関等に社会資源として認知され、今まで個人的な伝手頼りの保健師活動が、**制度としての後ろ盾**ができ、退職保健師の**活動の幅が広がった**。
- 2040年を見据えた、地域保健を推進していくためには、地域の貴重な保健人材である「退職保健師」の力を借りるのは、必須であり、自然な流れ。
また、退職保健師自身も「**生涯保健師**」の活動のために「**地域と係わる、地域とつながる**」を大事にしていた。そのため、退職後の保健師の力を借りるためには、何らかの形で**地域保健や介護保険等に関われる仕組みや活躍の場**をつくることが重要。
- 今後の地域医療の確保という観点からも、看護職員の確保は大きな課題。看護協会等の**職能団体と連携しながら**、看護職員の確保といった**大きな観点から事業を進める**のも一つの方法ではないか。
- **定年退職時期がバラバラであり、定年退職後の働き方も多様**である中で、どの段階で退職保健師としての活躍を呼びかけるかが課題。

最後に・・・

「徳島県プラチナ保健師」・・・

退職後も「生涯保健師」として、**ライセンスに誇り**を持ち、
地域とのつながりを大切にしながら、**自己研鑽**を行う、また、要請に応じて
地域貢献として活動を実施



退職した先輩保健師達が元気にいきいきと活動している姿が、
現役世代の保健師への大きなエールにもなっている



2040年に向けて、時代の要請に応えた
さらなる活躍の場や方法を模索していけばと考えている